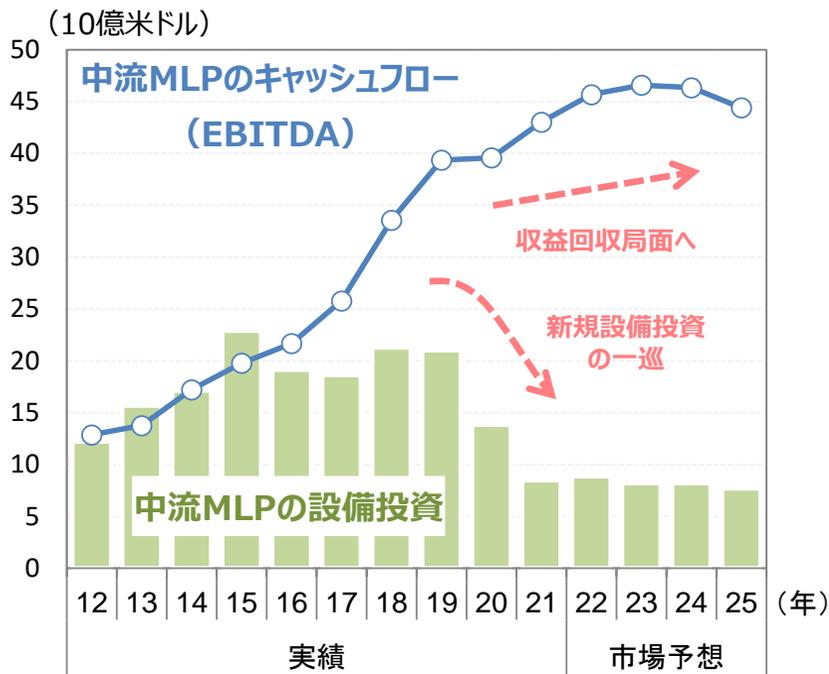




MLPの新規設備投資は一巡、自社株買いの動きが活性化

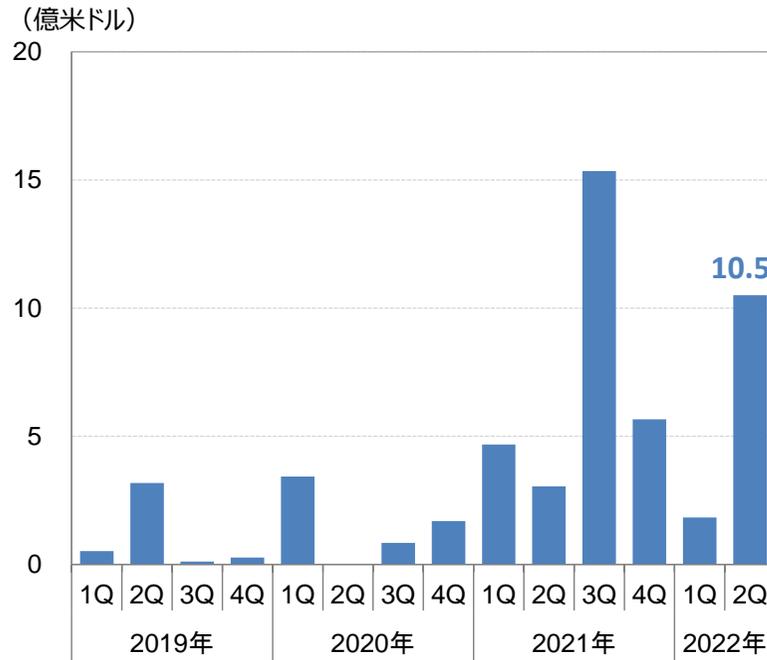
- 米国MLPは、パイプラインなどの大規模な設備投資がピークを越え、収益回収局面への移行によって利益が拡大することが予想されています。
- こうした利益の拡大を背景に、足元MLPによる自社株買いの動きも活性化する傾向にあります。2022年4-6月にはMLPによる自社株買い実施額は10.5億米ドルへ拡大しました。自社株買いなどの株主還元策は、今後株価の下支え要因になることが期待されます。

MLPの利益と設備投資額の推移



(出所) ファクトセット (期間) 実績：2012～2021年、予想：2022～2025年
 ※集計対象は中流MLP25銘柄 ※予想は2022年6月末時点の市場予想

MLPによる自社株買い実施額の推移



(出所) ファクトセット (期間) 2019年1-3月期～2022年4-6月期
 ※集計対象は中流MLP25銘柄



米国MLP業界では、足元ですでに設備が十分に構築されており、今後の利益は拡大の見通し。株主還元策として自社株買いの動きが活性化しており、株主還元策は今後株価の下支え要因になることに期待。

●当資料は、説明資料としてフランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社（以下「当社」）が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することをご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。●フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社（金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第417号）はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。